



# ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

No. 25 - 1

平成25年 5月27日

農業総合センター有機農業推進室

<http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/>

TEL (024) 958-1711

## オーガニック・コットンが結ぶ農業者と消費者の絆

～オーガニックふくしま安達の消費者交流活動への支援～

農業総合センター有機農業推進室

安達地方有機農業者組織「オーガニックふくしま安達」が昨年から本格的に栽培を開始した棉（綿花）を活用した消費者交流活動も本年で2年目を迎えました。4月20日（土）～21日（日）東京都代々木公園で開催された「Earth Day Tokyo（アースデイ）2013」では、来場者との棉の播種体験や交流、二本松産のリンゴ等の農産物販売を行いました。

当日は雨もぱらつくなど、あいにくの天候でしたが、棉の播種を初めて体験した来場者も、昨年のアースデイで体験された方も、真剣に楽しく作業をされていました。また販売したリンゴも、皆さんから大変好評で、好調に販売されていました。



アースデイでの出展風景



「(青年) 棉の種蒔きやってみない？」

「(女の子) やってみようかな…」



来場者との交流風景

(写真右下が好評だったリンゴ)



オーガニックふくしま安達では、昨年度から綿（綿花）の栽培（播種 → 苗定植 → 綿花収穫）を通じた消費者交流活動と同時に、綿取扱業者や染織業者と連携した綿加工品の開発を行っております。

本年もアースデイで播種（種蒔き体験）していただいたセルトレイを持ち帰り育苗しました。

引き続き、その苗の定植作業が、5月18日（土）～19日（日）の2日間、二本松市東和地区内のほ場で行われました。

作業体験には、オーガニックふくしま安達等の地元の農業者や従来から連携している綿業者の方のみならず、首都圏の生協関係者や消費者等、県内外から総勢20人以上の方が参加しました。

当日は天候も良く、オーガニックふくしま安達の関元弘さんをはじめ、農業者の皆さんの指導・助言のもと、順調に作業が行われました。

作業中はもちろん、終了後の懇親会でも、皆さんは交流を深めていました。

本年は3筆のほ場（面積合計20a）で綿の定植が行われました。これから秋まで農業者の皆さんが管理を行い、秋に綿の収穫も行う予定です。



棉苗育苗風景



ほ場へ出発する前の準備



定植作業の説明  
(中央でしゃがんでいるのが関さん)



定植作業風景



一日目作業終了後の記念写真撮影

## 有機生産者グループの活動紹介

### ○ あいづ有機農法生産組合

会津農林事務所農業振興普及部

あいづ有機農法生産組合（組合長：横山幸喜氏）は、今年で設立13年目を迎える会津地方における老舗の有機生産組織です。

組合員数は、平成24年度に新たに2名の生産者が加入し、7名となりました。全員が有機JAS生産工程管理者の資格を取得しています。

組合は、設立当初から、ミニトマトを始めとした多品目の野菜の生産・販売に取り組んできました。

平成19年から開始した有機米の栽培では、除草体系を紙マルチ栽培にすることにより、安定した生産が可能となりました。

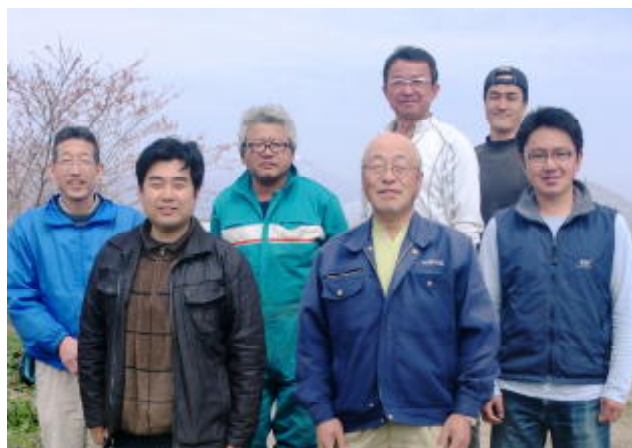
作付面積は徐々に増加し、現在では15ha超までに拡大しています。また、組合では有機米の個包装も独自で出来るように、精米の有機認証も取得しています。

生産物は地元生協で直売するほか、関東地方の有機専門卸売業者、小売店に販売しています。加えて、地元ホテルへ食材を提供するなど、会津産有機農産物の地産地消にも貢献しています。

『安全・安心な農産物を消費者に届ける事』をモットーに、取引先小売店での消費者との交流会や販売活動を継続して実施しています。また、新たな販路の開拓のため首都圏で開催されているフードマーケット等へも積極的に参加しています。

さらに、安全・安心をPRするため、農作物の分析は客観的な判断が得られる外部へ委託しています。加えて、農産物の放射線測定も全作目行うなど、風評の払拭に向けた活動にも取り組みを開始しています。

今後も、『安全・安心な農産物を消費者に届ける事』を基本に、『有機農業を実践するには家族の力添えがあってこそ』と、家族への感謝を忘れず、いつも前向きに、楽しく農業を行うことを心がけています。



組合員の皆さん（横山氏は前列右）

## 各地域からの話題

### 《浜通り》

相双農林事務所双葉農業普及所

### ○ 川内村のアイガモ稲作が本格始動！

川内村の秋元美誉さんは、震災後も水稻の試験栽培を継続していました。

昨年の試験栽培では、玄米はもちろん、肥育したアイガモの肉からも放射性セシウムは検出されませんでした。

川内村内の他の試験栽培からも、放射性セシウムは不検出か、基準値を大幅に下回る値でした。そこで村では、平成25年度から、避難指示解除準備区域と居住制限区域を除いて、水稻作付けの自粛を解除しました。村内では、約100名の方が約100haで水稻を作付する予定です。



秋元美譽さんは、約 3.5haで水稲の作付けを再開し、一部でアイガモを使った水稲の特別栽培を行います。

今年は、5月12日に田植えが行われました。首都圏からは消費者ボランティアの方が親子連れで参加し、村内などの方々と合わせて約40名が、ズボンのすそをまくって田植えに参加し、作付けの再開を喜び合っていました。

5月13日には、アイガモのヒナが到着しました。今はハウスの中で体力をつけながら、水田での除草の出番を待っています。

今後も、川内村のアイガモ稲作を支援し、その様子をお伝えいたします。



小屋の中のアイガモ

## 《会 津》

会津農林事務所農業振興普及部

### ○ あいづ産を売り込め！ 会津若松市で商談会開催！！

4月19日、会津若松市鶴ヶ城体育館において、会津若松市・桜咲く会津フェスタ実行委員会主催によるイオングループ企業との商談会が開催されました。

当日は、会津地域の農産、加工食品、酒類製造販売企業など約80社とイオングループ企業のバイヤー約100名が参加しました。

会場では、会津地域の特産品売り込みに向け各出展者が担当バイヤーに商品の特徴や購買ターゲットを盛んにPRしていました。

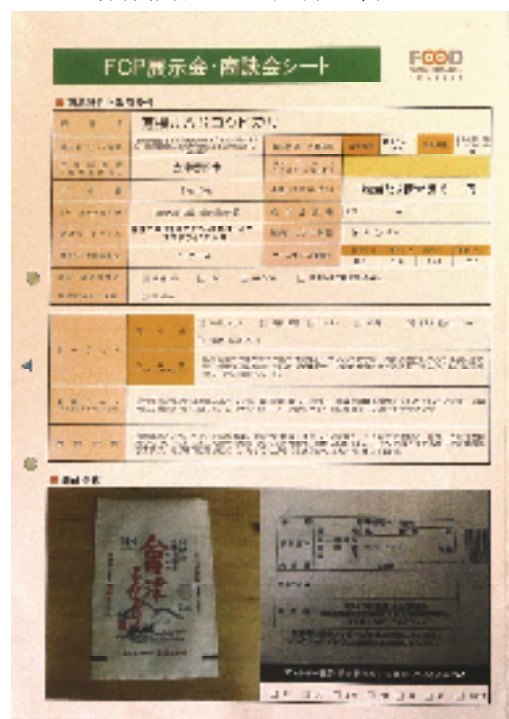
今回、農産物を含む食品関係出展者は「FCP（フード・コミュニケーション・プロジェクト）展示会・商談会シート」を活用し商談を進めることが試みられました。このシートは、農林水産省と食品事業者、関連事業者が協働で取り組むプロジェクトの一環として、出展者、バイヤーが効率的に商談を勧めるために開発されたものです。シートの利用に当たり、出展説明会と合わせてFCPシート作成の説明会を始め、『商談の心得』と題した、セミナーもありました。

商談会には、あいづ有機農法生産組合（代表：横山幸喜氏）が参加し、有機米・有機野菜の特徴や販売ターゲット、商品取引情報（容量、価格等）をシートにまとめ、バイヤーとの商談に望みました。生産組合のブースには複数のバイヤーが訪れ、商品に関する問い合わせや、情報交換が活発に行われていました。

会津地域では、今後も生産者を対象に、農産物の販路拡大に向け、商談の基本を学ぶためのセミナーの開催や、首都圏での商談会等への参加支援が予定されています。



あいづ有機農法生産組合の皆さん



商談用FCPシート

環境と共生する農業の新マークがデビューしました！

環境保全農業課

このたび、福島県では、環境と共生する農業をPRするため、「有機農産物」、「特別栽培農産物」、「エコ農産物」のパッケージなどに貼るマークを作成しました。

マークはそれぞれの農産物に合わせた3種類（下記参照）で、県のマスコットキャラクター「キビタン」や「キビタンファミリー」が空を飛んでいるデザインとしました。

このマークは、該当する農産物を生産される方や、出荷・販売される方（団体等）であればどなたでもご利用になれます（シール等作成費用は自己負担）。

利用したい方は、福島県環境保全農業課（下記連絡先）までご連絡ください。なお、申請書は当課のホームページからダウンロードできます。

連絡先

福島県 農林水産部 環境保全農業課

電話 024-521-7342（直通） FAX024-521-7938（直通）

メール kankyuhouzen\_nougyou@pref.fukushima.lg.jp（直通）

ホームページ <http://wwwcms.pref.fukushima.jp/>（環境保全農業課を検索）



## 《お願い》

次号から、『ふくしまオーガニック通信』の配信方法が変わります。

- ① 『ふくしまオーガニック通信』は、農業総合センターの[ホームページ](#)から読むことができます。

トップページの刊行物等の欄の『ふくしまオーガニック通信』をクリックして下さい。PDF形式で、バックナンバーも揃っています。

ホームページ：<http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/>

- ② **メール**による配信をご希望の方は、有機農業推進室までご連絡下さい。

メールアドレス：[yuuki\\_otasuke\\_soudan@pref.fukushima.lg.jp](mailto:yuuki_otasuke_soudan@pref.fukushima.lg.jp)

- ③ インターネットに接続していなくて、ホームページやメールが利用できず、引き続き**郵送**による購読をご希望の方も、有機農業推進室までご連絡下さい。

〒963-0531 郡山市日和田町高倉字下中道 116番地

電話：024-958-1711 FAX：024-958-1730

## 福島県の平成25年度有機農業推進体制

農業総合センター有機農業推進室

平成25年度の農業総合センター及び農林事務所の有機農業推進体制をお知らせします。農業総合センター有機農業推進室は5名、会津農林事務所農業振興普及部と相双農林事務所双葉農業普及所は各1名の職員が担当します。

東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故以来、3回目の春を迎えました。本県では、これまで放射性物質の吸収を抑制する栽培技術の普及や食品の放射性物質含量の検査態勢を整えるなど、安全な農作物の生産、流通に努めてきましたが、風評の払拭までには至っておらず、厳しい販売状況が続いています。

本県の有機農作物が再び安全性に対する信頼を得るため、農業者の方々を支援してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

### 農業総合センター有機農業推進室



専門研究員 専門員 室長 主任主査 主査  
浅沼 顕 小澤 一夫 手代木昌宏 菅野 弘一 佐藤 雄一

### 相双農林事務所 双葉農業普及所



主任主査  
佐藤 宏光

### 会津農林事務所 農業振興普及部



主査 (キャップ)  
岡崎 徹哉

### 《お知らせ》

**第1回福島県有機農産物認定業務講習会** が開催されます。

7月18日(木)に農業総合センターで開催されます。

福島県から有機JAS認定を取得するには、この講習会を受講しなければなりませんので、希望者は必ず受講して下さい。事前申し込みが必要です。申し込みは、当センター

**指導・有機認証課** TEL 024-958-1708 までお願いします。